

■小中学校適正配置基本計画第二段階に係る説明会(第1回)開催結果

◇説明会開催状況

開催日時	対象	出席者数(名)	会場
平成30年2月 6日(火) 18:30~	横林小学校 保護者	8	横林小学校
平成30年2月 7日(水) 19:00~	大貫小学校 保護者	13	大貫小学校
平成30年2月 8日(木) 18:30~	関谷小学校 保護者	10	関谷小学校
平成30年2月13日(火) 18:50~	箒根中学校 保護者	2	ハロープラザ
平成30年2月19日(月) 18:30~	就学前児童 保護者	22	ハロープラザ
平成30年2月21日(水) 18:30~	横林小学校区 地域住民	38	横林小学校
平成30年2月22日(木) 18:30~	大貫小学校区 地域住民	11	大貫小学校
平成30年2月23日(金) 18:30~	関谷小学校区 地域住民	9	ハロープラザ

◇質疑概要

- ※区分・・・『保護者』=各小中学校の保護者
『就学前』=就学前児童の保護者
『地域』=各小中学校区の地域住民

○計画・方向性(案)関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	今回の方向性(案)に至った経緯・考えについて聞きたい。また、施設一体型としなくても、箒根中は今のままでやっていけるのではないか。	学区の再編も含め検討しましたが、 ○全ての学区で児童生徒が緩やかに減少していく見込みであること ○学校は集団生活を学ぶ場でもあり、一定程度の児童生徒数が必要であること ○複式学級における学習面などの影響 などを踏まえ、学区の再編は行わず、あくまで現在の箒根中学校区の中で一定規模の小学校と中学校を存続させるべきとの考えに至りました。施設一体型義務教育学校の設立は、高い教育的効果が見込まれることから、その手法の一つとして提案させていただいたところです。
2	保護者	平成22年計画策定時もそうだったが、88名以上児童がいれば統合はないと言いながら、市は何も対策をしていないように思える。今回も方向性を伝えるだけで、後でこのように決まりましたと言ってくるのか。	定住促進や企業誘致などに取り組んできましたが、児童生徒数が減少傾向にあることから、案という形で皆さまにお示ししたところです。賛否両論あるかと思いますが、最終的には多くの方に賛同いただけるようコミュニケーションを図りながら進めてまいります。
3	保護者	義務教育学校の設置場所を関谷小とした理由は。統合する場所は関谷小学校で決定なのか。	箒根中学校区の中で人口の集中や周辺環境(歩道等)を勘案し関谷地区を候補地と考えました。関谷地区にある関谷小と箒根中を比較した場合、敷地面積はほぼ一緒ですが、関谷小は区画整理地内にあることなどを勘案しました。これは決定ではなく、あくまでも現時点の案です。
4	保護者	関谷地区は空間放射線量が高い「ホットスポット」との認識が広まっているので、児童生徒は集まりにくいのではないか。	現在は空間放射線量が著しく高い状況ではありませんが、「線量が高い」という意識はあると思われます。
5	地域	関谷断層があるところにわざわざ学校を作る案となっているが、そのリスクを考えているのか。	文部科学省地震調査研究推進本部の分析では、今後100年以内の地震発生確率は「ほぼ0%」、今後300年以内の地震発生確率は「ほぼ0%~0.003%」となっているほか、建物は耐震性など厳しい基準をクリアした、大地震にも耐えられる構造としていることから、避難所にも指定されているところでもあります。
6	地域 保護者	関谷小の敷地面積を考えると校舎の増築は難しいのではないか。また、中学生が一緒になると、グラウンドも手狭になり、部活動の実施が難しいのではないか。(野球、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス)	学校の敷地面積は、箒根中よりも関谷小の方が若干広い程度ですが、駐車場などを周辺の市有地に設置するなど配置を工夫する予定です。部活動については、箒根中グラウンドを第2グラウンドとして活用するなどの検討もしてまいります。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
7	保護者	現・箒根中を活用し、分離型義務教育学校にはできないか。新校舎を増築するよりも安価で良いのではないか。	全ての中学校区で小中一貫教育を実施する中で、施設一体型小中一貫教育を実践している塩原小中学校において、教育的効果の観点から良い傾向が見られることから提案したところです。
8	保護者	新しく施設整備して義務教育学校を作るよりも、小規模校を存続した方が財政コストも抑えられるのではないか。	児童生徒の学習面などを第一に考えた中で、小中学校の教師が相互乗入れ授業を行うことなどによる学習面での効果を期待しているところです。
9	保護者	新校舎を建てるなら、10年後、20年後、30年後を見据えるべきである。関谷に小中一貫校を建てても、児童生徒数が減少傾向にある。よく考えるべきだ。	児童生徒数は減少傾向にありますが、方向性（案）による規模であれば、複式学級は回避できると考えました。その上で、魅力ある学校を作り上げることが、さらに人を集める力に繋がると思っております。
10	保護者	塩原小中学校の保護者から、一体型のため、低学年の児童が中学生の悪い言葉使いをまねしてしまう傾向があると聞いた。	一体型により中学生の悪い部分に影響されてしまう点については、生活指導の中で細かに目を配る必要があると考えます。一方で中学生は、小学生とともに生活する中で、面倒見が良くなるという傾向も見られています。
11	保護者	保護者・地域住民の同意とは。	100%の同意を得ることは難しいかもしれませんが、反対意見をいただくこともあるかと思いますが、理解を得られるよう努めてまいります。
12	保護者	説明会により、方向性（案）の変更等の可能性はあるのか。	今回の方向性（案）が決定ではありません。皆さまの御意見を伺いながら、児童生徒にとってよりよい学習環境を考えてまいりたいと考えています。
13	保護者	関谷小と金沢小が統合した際、金沢小統廃合準備委員会に参加した経験から、4校の統合はなかなか難しいのではないか。一つのことを決めるのにも、ものすごく時間がかかると思う。	新しい学校を作ることになるため、学校名を決めるだけでも時間はかかると認識しています。そのため、施設整備と並行して、統廃合に向けた準備・協議を進めていかなければならないと考えています。
14	保護者	義務教育学校（小中一貫校）になることのデメリット（メリット）は。	別途御説明します。
15	保護者	小規模校の児童にとっては、義務教育学校になることで同級生が増えるなど目に見えるメリットがあると思うが、中学校の学区は現状と変わらず、目に見えるメリットはないと感じる。中学校だけを考えれば、一貫校にするメリットがよく分からない。	前期課程（小学生）を経て後期課程（中学生）となった生徒は、それまでの授業で既に専門的な授業を受けており、さらなる学力向上が期待されます。（通常の小学校では、教科担任による専門的な授業が受けにくい） また、後期課程における学習面の遅れに対しても、基礎的な部分のサポートに長けた前期課程教師による対応が可能となり、後期課程に対するメリットも十分確保できると考えます。
16	保護者	箒根中では生徒数減少により、部活動などの問題が顕在化しつつある。その改善を図るため、学区の再編を含めた形での義務教育学校の設置という考えはないのか。学区再編がない今回の方向性では、結局は尻すぼみになってしまうのではないか。三島中学校区の一部を再編し箒根地区に組み入れる形で、西那須野地区と箒根地区の中間辺りに、義務教育学校を新設する考えはないのか。	西那須野塩原インター付近への新設校設置という要望はこれまでもありましたが、市総合計画を始めとする各種関連計画を踏まえると、関谷地区が居住誘導地区であるほか、用途地域外で人があまり住んでいないところに学校を新設することは難しいと考えます。 都市計画上の考えもありますが、今後、保護者や地域の皆さまと一緒に魅力ある学校づくりを目指すことで、区域外からも人が集まる学校にしていきたいと思っております。
17	保護者	西那須野の赤田地区に中学校ができるような話を聞いたが本当か。	そのような計画はありません。適正配置基本計画に係る説明会等を行う中で、「西那須野インター付近に新しい学校を作ってはどうか」との要望があったことから、そのような話が広まったと推察されます。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
18	保護者	児童生徒を第一に考えた場合、適正規模が見込めない義務教育学校を作る意味があるのか。箒根地区だけでは解決できない問題であり、箒根地区だけで考えている限りは適正規模の実現は望めないのではないのか。	保護者や地域の皆さまが取り組まれているように、規模にかかわらず魅力的な取組は可能だと考えています。 しかしながら、子どもたちにとっては大人たちとの関わりもさることながら、同年代同級生との深い関わりも重要であり、また、社会に出るために集団生活から学ぶこともとても重要だと考えており、複式学級となっている現状は、何らかの対処が必要だと感じているところです。
19	地域	資料に「箒根地区を一つのエリアと捉え」と記載されているが、生活圏が異なり、中学校も三島中である。合併して13年も経過しているのに、なぜ旧市町のエリアにとらわれるのか。合併した3市町の融合が進んでいるのに、どうして教育委員会だけはこのような考え方をするのか。	市では全中学校区で小中一貫教育を推進していることから、箒根中学校区にとってよりよい未来を考えたところです。地域によって指定校変更により他校に通学している現状があるのは把握していますが、他の中学校区では中々取り組めない教育内容を提供できると考えたほか、子どもたちに9年間を通じた教育活動によりこの地域をより好きになってもらえるよう、皆さまで一緒に魅力ある学校を作っていきたいと考えています。
20	地域	児童生徒の減少を考え、義務教育学校を設置したいという気持ちは理解できる。しかし、なぜ箒根地区を一つのエリアと捉えるのか。通学区域を決めず、自由に他校に行くことができるという選択肢も残してもよいのではないのか。	地域の皆さまの生活圏が多様な状況を理解した上で、全中学校区で小中一貫教育を推進していることから、箒根中学校区にとってよりよい未来を考えたところです。 地域によって指定校変更により他校に通学している現状があるのは把握しています。あくまで指定校は義務教育学校とする案ですが、今後も指定校変更の制度は利用できます。
21	保護者	中学校の適正規模は何名か。	市では明確な基準は定めていませんが、国の指標では12学級から18学級が標準となっています。
22	就学前 保護者	義務教育学校の開校までのスケジュールを教えてください。	あくまで、現段階で皆さまの御理解を得られた場合のスケジュールは以下のとおりとなります。 〔H30. 5月現在〕 関係各校の保護者や地域住民への説明 ※方向性（案）の合意確認後 〔数か月後〕 直近の議会に上程 ↓ 〔議決後、速やかに〕 準備委員会等による各種調整 〔議決の翌年度以降〕 施設整備 ↓（3年程度） ◆開校（早くてもH34. 4月）
23	保護者	計画上、第二段階は平成32年度までとなっているが、それまでに実施するということか。スケジュール変更の可能性は。最長ではどれくらい時間がかかる見込みであるのか。	現在の方向性（案）においては、平成32年度までの開校は不可能と考えています。 （上記の）スケジュールはあくまで目安ではありますが、保護者等の合意形成や施設整備等を考えながら進めてまいります。 また、一定規模の新入生が確保できなくなっている現状もあり、話し合いを進めながらできるだけ速やかに合意形成を図りたいと考えています。

○義務教育学校(小中一貫校)関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	義務教育学校（施設一体型小中一貫校）のイメージが湧かないので、塩原小中学校の状況や義務教育学校の詳細を教えてください。	別途御説明します。
2	就学前	小中一貫と聞くと私立学校のように感じる。小学生と中学生はどのようになるのかイメージが湧かない。一つの学校として、校舎、校庭、体育館などを共有して利用するのか。	学校は公立学校のままです。 施設は、1年生から9年生まで共有して利用します。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
3	保護者	義務教育学校になることで、一部地域の子どもたちが他校を選択するようなことにならないか。そうならないためにも、教育委員会の思いやスクールバスのメリットなどを前面に打ち出した説明をしていただきたい。(メリットを分かりやすく説明し、保護者の心に響くようにしてほしい)	是非そのようにしたいと思います。
4	保護者	塩原小中学校や小山市絹義務教育学校が始まるときの保護者の意見をお聞きしたい。また、義務教育学校になって良かったこと、悪かったことをお聞きしたい。	別途御説明します。
5	保護者	義務教育学校の独自の取組として、全国的に注目を集めている取組があるのか。より先進的な取組があれば参考までに教えてほしい。	別途御説明します。

○学校の魅力化関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	『魅力的な学校づくり』の魅力とは何か。	別途御説明します。
2	就学前	学校の魅力化について、具体的にどのようなものを想定しているのか。	別途御説明します。
3	保護者	箒根中学校区のブランドを立ち上げるという話があったが、具体的な案はあるのか。	魅力ある学校づくりという点では、例えば、他に無い部活動や独自の教育課程、施設設備の特色、地域と連携した取組など、どの分野で特色を打ち出し、ブランド化するかは皆さんとともに作り上げていきたいと考えています。
4	保護者	学校の魅力化だけでは標準規模の達成は見込めないと思う。大規模校である三島中の一部を編入するしか手段はないと思うが如何か。	これまで地域の皆さまがそうしてこられたように、規模にかかわらず魅力的な活動が可能と考えますが、複式学級となっている現状は、何らかの対処が必要だと感じているところです。学区再編については前述のとおりですが、三島中も将来的には生徒数が減少すること、地域のコミュニティ活動が小学校区単位や各自治会で行われていることなどを踏まえ、今回の方向性(案)としたところです。
5	保護者	箒根中の入学者説明会において、生徒数の減少が部活動の存続に影響する可能性が示された。今後も部活動を理由に指定校変更を認めると、箒根中の生徒が減少することが懸念される。そのような中で義務教育学校にする意味があるのか。	新たな義務教育学校にどういった部活動を設置するかは、今後の協議の中で決定していきますが、教育委員会としても箒根中生徒の減少を危惧していることから、義務教育学校の設置を契機に皆さまと意見交換しながら、より魅力的な部活動や教育課程を作っていくことで、このような流れを少しでも食い止めたいと思っています。
6	保護者	保護者の生活圏から、指定校変更で最寄りの学校を選ぶケースもあると思う。よほどの魅力がないと人を集めるのは現実的には難しいと思う。	現在、塩原小中学校では9年間を見通した特色ある取組として、英語教育、作文指導、地域学習などを実践しています。郷土愛を育み、将来、「この地域に戻ろう」と思ってもらえるような取組を積極的に進めているところです。箒根地区の義務教育学校も、教育委員会や学校だけでなく保護者や地域の皆さまと一緒に考え、作り上げていくことで、地域ならではの魅力ある学校を目指していきたいと考え、今回の方向性(案)を提示させていただきました。
7	保護者	小規模特認校として市から補助をいただき独自の取組を実施してきたが、来年度からは補助がなくなると聞いて残念な思いである。義務教育学校の設置に当たり魅力化を図っていくにあたり、その取組が尻すぼみになることがないようにしていただきたい。	小規模特認校に対する補助金は時限立法として始まったもので、当初から期限を決めて交付していたことから、平成30年度は補助金の交付はありませんが、小規模特認校として活動に対し、学校への配当予算として対応したところです。魅力ある学校づくりにつきましては、設置後もさらなる魅力を求め、皆さまとともに取り組んでまいります。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
8	保護者	学校の魅力化の進め方として、開校後に手探りでは困る。子どもが実験台とならないよう、義務教育学校の開校前に万全を期していただきたい。 また、開校前に学校の魅力について周知はなされるのか。	方向性（案）の決定後、統廃合準備委員会でどんな学校にするか協議していきます。新たな学校の核となる教育方針や具体的な取組などは、開校前に準備を整えておく必要があります。また、これらは検討段階も含めて、開校前に周知をしていきます。

○小規模特認校関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答																								
1	就学前	小規模特認校で実践している独自の取組は、市のホームページなどで確認できるのか。また、各学校では小規模特認制度（地域外就学）を促進するため、どのような周知（PR）を行っているのか。	小規模特認校に限らず、各学校で実践している様々な取組は各学校のホームページで確認することができます。 また、周知方法は学校により異なりますが、学校紹介のリーフレットなどを作成し、説明用に利用しているほか、配布しているところもあります。																								
2	就学前	小規模特認校において、地域外就学により児童生徒が増えている学校はあるのか。	平成29年度及び平成30年度の地域外就学者数の実績は、下記のとおりです。塩原小中学校の地域外就学が0人となっているのは、地理的な要因が大きいと思われます。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学 校 名</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>波立小</td> <td>24名</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>高林小</td> <td>6名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>青木小</td> <td>20名</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td>関谷小</td> <td>2名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>大貫小</td> <td>7名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>横林小</td> <td>7名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>塩原小中</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> </tbody> </table>	学 校 名	平成29年度	平成30年度	波立小	24名	23名	高林小	6名	6名	青木小	20名	19名	関谷小	2名	1名	大貫小	7名	6名	横林小	7名	6名	塩原小中	0名	0名
学 校 名	平成29年度	平成30年度																									
波立小	24名	23名																									
高林小	6名	6名																									
青木小	20名	19名																									
関谷小	2名	1名																									
大貫小	7名	6名																									
横林小	7名	6名																									
塩原小中	0名	0名																									
3	地域	教育委員会は小規模校の良さをどのように認識しているのか。 また、複式学級が編成されている学校は統合する「統合ありき」という印象を持つが、本当に今回の説明会などの意見を聴いて、方向性（案）を再検討する意志はあるのか。	教育委員会が考える小規模校のメリットは下記のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の学習状況などを先生方が把握しやすい ○より丁寧で細やかな指導ができる ○子どもたち自身が意見や発表する機会が多い ○様々な場面でリーダーになる機会が多い ○ICT機器など教材や教具が行き渡りやすい ○異年齢の子ども同士との交流・結びつきが強まる ○学校行事や奉仕活動など、地域の方々がより協力的・積極的である 今回は、現時点での市の方向性（案）を御提案したところであり、決定ではありません。しかしながら、複式学級となっている現状は、何らかの対処が必要だと感じているところです。																								

○児童生徒関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	保護者としては、市の方向性が決まらない状態では子どもに話もできない。このような状況は、子どもにとっても精神的な負担が大きいので、その点よく考えてほしい。	意見交換の必要性を考慮し統合時期など明記せず、方向性（案）とした上で、保護者や地域の皆さまの意見をいただいたところでした。今後の進め方においては、お子さんの負担も十分考えて進めてまいります。
2	保護者	新しい学校ができるまでは、現在の学校に居られるのか。急なスケジュールの前倒しなどがあっては困る。	新しい学校ができるまでの間は、現在の学校に通学できます。 また、新しい学校をスタートさせるまでには統廃合準備委員会等で様々な議論や調整をする時間が必要ですので、急な前倒しなどは考えておりません。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
3	保護者	開校時に1年生に上がる子どもは良いが、2～6年生はいきなり他校の児童と一緒にいる。その辺のフォローはどのように考えているのか。	これまで統廃合した学校では、統廃合までの期間に学校同士で交流事業を行っていました。また、保護者等が参加できる学校行事も行いました。今回も児童や保護者が新しい学校に馴染めるように、準備段階から交流事業などを実施し、学校間はもとより学校と地域のつながりも大事にするよう取り組みます。
4	地域	統合ありきというわけではないが、仮に統合となった場合には、旧小学校区毎に保護者が分かれることがないよう、また、統合される側の保護者や地域住民が「自分たちの学校だ」と感じられるよう、学校とのつながりが希薄化しないよう、そういった取組をお願いしたい。	
5	保護者	小中学校の先生が一緒だと、学習指導や生活指導の面で小学校の先生が中学生を教えた場合に甘い指導になったり、逆に中学校の先生が小学生を教えた場合に厳しすぎたりするなどの弊害が起こるのではないのか。	一般的に「小学校の先生はやさしい、中学校の先生は厳しい」というイメージをお持ちだと思うが、各段階（学年）に応じ、児童生徒の気持ちに寄り添い、気持ちを汲みながら丁寧な指導を心掛けており、現に荒れている学校が少なくなっている事実もあります。また、義務教育学校においては1～9年生と幅広い学年が一緒にいることのメリットを生かし、厳しく指導する場合は、その指導を受けた生徒のみならず、その様子を見ている児童生徒も理解してもらえようように説明するなど対応を工夫していきます。また、こうした対応の工夫のほか、小学生から専門の教科担任による授業を受けられるといった学習面の大きなメリットもあると考えます。
6	就学前	義務教育学校では1～6年生も制服になるのか。	制服をどうするかは、今後、統廃合準備の中で学校や保護者の皆さまと協議し、決定します。なお、塩原小中学校では、前期課程の1～6年生が私服、後期課程の7年生から制服となっており、他の小・中学校と変わりありません。

○授業関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	小学生と中学生で体育の授業が重複することはないか。グラウンドを半分ずつ使うなど、体育の授業がスムーズに行えないケースも出てくるのではないのか。	授業の時間割を調整することで不都合は生じないと考えています。現に、1学年4～5学級ある大規模校や塩原小中学校でも時間割の配置などで対応しているところです。なお、学年をまたいで合同で行うことは基本的にはありません。
2	保護者	時間割の調整の中で1年生と2年生が合同で体育を行うケースも出てくるのか。	
3	保護者	1コマの授業時間は小学校が45分、中学校が50分だと思うが、今後はどうなるのか。	塩原小中学校では、「4（1～4年生）・3（5～7年生）・2（8・9年生）制」で学習指導等を行っていますが、「3」の始まりである5年生から50分授業を取り入れています。

○校舎・設備関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	義務教育学校の校舎はどうなるのか。職員室は、小学校の先生も中学校の先生も一緒になるのか。	施設一体型の場合、関谷小を活用し、不足する中学校分を増築するイメージです。また、義務教育学校の場合、教員組織が一つ（校長1名、教頭2名）になるほか、先生同士の連携などを考慮すると、職員室は一つにすることが望ましいと考えます。
2	保護者	施設一体型義務教育学校は、職員室を一つにしなければならないという決まりはあるのか。例えば、多くの保護者が職員室を分けてほしいと望めば、そのようにしていただけるのか。	
3	就学前	小学生と中学生では体の発達に大きな差があり、そのため小学校と中学校では階段の段差など施設面に違いがあると思うが、義務教育学校になるとそのような施設面はどうなるのか。	施設整備に当たっては、関谷小校舎をそのまま活用し、不足する中学校分の校舎を増築するイメージです。その際、階段の段差など基本的には小学校に合わせる予定です。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
4	保護者	学校の魅力化の一環として通年水泳ができるよう、新たに整備するプールは、屋内温水プールにしてもらいたい。また、子どもたちが使わない時間帯は、地域開放してもらいたい。	教育委員会としても屋内プールが必要だと考えており、また、地域開放も検討してまいります。
5	保護者	以前から要望しているが、プールを早く整備してもらいたい。また、関谷小では排水の問題でプールが整備できないと聞いたことがあるが本当か。	規模や設置場所の検討に時間を要しますが、方向性（案）について御理解をいただいたのち、可能な限り早期に整備したいと考えます。なお、排水の問題はありません。
6	保護者	体育館は今のままなのか。	体育館は、面積が不足するので建替えを予定しています。
7	保護者	建替え中は、体育館が使用できなくなるのか。	建替え中は箒根中体育館を使用する予定です。なお、他校の例では、4月の入学式は既存の体育館で行い、3月の卒業式は新しい体育館で行える工期で建替えています。

○通学手段・スクールバス関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	義務教育学校の通学手段はどうなるのか。	遠距離通学の負担軽減を図る観点から、後期課程の生徒も含めて、スクールバスでの対応を考えています。
2	保護者	スクールバスは何キロメートル以上などの利用基準はあるのか。	利用できる範囲は、今後検討していくこととなります。なお、小学校は4km以上、中学校は6km以上という基準はありますが、統廃合を実施した学校では、この基準を緩やかにして運用しているところがあります。
3	保護者	スクールバスは何台で運行するのか。また、運転手はどのような方を予定しているのか。	利用する児童生徒の自宅などから総合的に判断しますが、方向性（案）の場合、最低2台（2ルート）は必要と考えます。運転手も含め、詳細は準備委員会で検討することになりますが、現在運行しているスクールバスはバス会社又はタクシー協会への業務委託としています。
4	保護者	金沢小と関谷小が統合した際、金沢小学校区の児童のみがスクールバスの対象になった。当時は特段問題にならなかったが、関谷小学区は広いのでスクールバス利用児童よりも遠くから通学する児童もいる。	金沢小と関谷小の統合の際、統廃合準備委員会でPTA等と協議し、そのルート、運行時刻、停留所などを決定しました。今回もそのような形で協議していきたいと考えています。
5	保護者	スクールバスの運行時刻は、小学生も中学生も同時刻の設定か。また、小学生も中学生も同じバスに乗るのか。	スクールバスの運行時刻やルート等は、学校や保護者の皆さまと協議し決定していきます。なお、登校の際は、小学生も中学生も同じバスに乗ることになると思います。
6	保護者	保護者の仕事（出勤時間等）の都合でスクールバスに乗れない児童生徒及びその家庭のフォローを考えてもらいたい。	停留所の位置を細かく設定するなどして、児童生徒が安全に停留所まで来ることができるようにします。また、これまでに統合した学校では、下校便を3便運行し、低学年の児童や部活動を行う児童生徒の下校にそれぞれ対応しています。なお、スクールバスの運行時刻、運行ルート、停留所の位置、運行便数などの詳細は、統廃合準備委員会の中で保護者の皆さまと協議し決定していきます。
7	保護者	スクールバス利用児童が体調不良などの理由により早退する場合、塩原小中学校ではどのように対応しているのか。	早退する場合、保護者に連絡し迎えに来てもらっており、個別のスクールバス対応はしていません。箒根地区の義務教育学校においても、そのような対応になると思います。
8	保護者	中学生も含めてスクールバスで通学できるのは、遠距離通学者や保護者には大きなメリットになると思うので、広く訴えていった方が良いでしょう。	承知しました。スクールバスだけではなく、皆さまと意見交換しながら、一緒に魅力ある学校づくりを進めていきたいと考えています。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
9	地域	県道関谷上石上線は道幅も狭く、またダンプの往来も頻繁なので、児童生徒の通行に危険な道路である。また、毎日大型のスクールバスが運行するとなると交通事故も大変心配である。こうした周辺整備も市が真剣になって取り組む必要があると思うので、十分に検討し進めてもらいたい。	安心・安全の観点はもちろん大事なことだと考えています。スクールバス停留所の確保も含め、周辺環境整備など御意見として承ります。
10	保護者	保護者の勤務先によっては、子どもの迎え時間が遅くなることから、学童クラブの利用者もスクールバスを利用させてほしい。	保護者と学童クラブのコミュニケーションを図る貴重な機会であることから保護者によるお迎えが原則ですが、学童クラブのスクールバス利用に関しては、今後も担当部と協議してまいります。

○学校行事関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	就学前	中学校の入学式はなくなるのか。	後期課程（中学校）の入学式は行いません。義務教育学校になると、入学式は1年生の1回、卒業式は9年生の1回となります。
2	就学前 保護者	前期課程修了後、指定校変更により別の中学校に入学する場合、その児童は卒業式をしないまま中学校に入学することになるのか。	前期課程修了時には卒業式がないので、そのとおりであるが、塩原小中学校では修了式の中で前期課程の修了証書を交付している。
3	保護者	6年生の修学旅行もなくなるのか。	新たな義務教育学校で6年生の修学旅行をどうするかは、今後検討していきます。 なお、塩原小中学校では6年生で修学旅行を実施しない代わりに宿泊体験を実施しています。

○給食関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	保護者	義務教育学校になった場合、給食は自校調理か、又は給食センターからの配送になるのか。	自校調理の場合、現在の給食室を若干改修する必要がありますが、学校の魅力の一つとして、前向きに検討します。

○指定校関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地域 保護者	義務教育学校において後期課程に進む段階で、部活動を理由に指定校を変更し、他の中学に進学することは可能か。	今回お示した方向性（案）は、箒根中学校区全域を義務教育学校の通学区域とするものですが、基準に合致すれば、指定校変更の手続を経た上で他校に通学することは可能です。
2	地域 就学前	地域によっては、距離的に他校に近い方もいるが、それでも指定校は義務教育学校になるのか。他校への入学や転校はできないのか。	しかしながら、教育委員会としては、「このまま義務教育学校の後期課程に上がりたい」と思っていたらけるような魅力ある学校を皆さまと一緒に作っていきたいと思っております。
3	保護者	スクールバス通学の場合、指定校変更の許可基準の一つである「指定校よりも通学距離が明らかに近い場合」という理由が通用しなくなってしまうのではないのか。	通学手段にかかわらず、通学距離が明らかに近い場合は、これまでどおり指定校変更は可能です。
4	就学前	通学区域が塩原小中学校になっている子どものうち、区域外就学（又は指定校変更）により他校に通っている子どもは何人ぐらいいるのか。	塩原小中学校区域から他校に通っている児童生徒は平成30年度で5名おり、いずれも保護者の仕事の都合等により親戚などの家から通っているケースとなります。 なお、通常は小規模特認校に指定されている学校から、他の小規模特認校に就学することはできません。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
5	地域	塩原小中学校に区域外から就学している児童生徒は何人いるのか。	平成29年度、平成30年度ともに0名です。これは地理的な影響がかなり大きいと考えます。

○学童クラブ関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地域 保護者	関谷小学校の学童クラブはいっぱいではないと聞いているがどうか。	希望者が入れるよう、増築する予定です。
2	地域	現在の地域の学童クラブが無くなってしまふのは困る。	御要望として承ります。

○跡地活用関係

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地域 保護者	統合した後の各学校は何かにご利用するのか。または取り壊すのか。	統廃合した学校は校舎等の利活用を進めます。各学校とも、校舎等の活用については地域の皆さまと一緒に検討していきたいと考えています。なお、現在旧戸田小は事業者へ貸し付けし、障がい者の就労施設兼地域の憩いの場として活用される予定です。
2	地域 保護者	箒根中の跡地利用はどうなるのか。	義務教育学校の第2グラウンドとしての活用も含めて、今後検討していきます。なお、義務教育学校での利用を最優先しますが、地域の皆さまや民間事業者の活用も視野に入れて検討していきます。
3	保護者	旧金沢小の跡地利用はどうなっているのか。	現在のところ、具体的な利活用は決まっておりません。

○その他要望／市教育委員会に対する御意見

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
1	地域	P T A、就学前児童の保護者、地域住民に分けて説明会を開催した理由を教えてください。	それぞれの立場から、その思いをお聞きしたいという考えから、分ける形で開催させていただきました。
2	保護者	2月に実施した地域住民説明会の参加人数がそれほど多くなかったと聞いたが、参加しやすいように平日夜の開催ではなく、土・日曜日の開催を検討したらどうか。説明会を開催しても参加者が少ないと、市の説明責任を果たしたことになるのか。	御意見として承ります。平日の説明会に出席できなかった方などを対象に、6/3（日）の午前10時から、ハロープラザにて説明会を開催することとしました。
3	保護者	このような説明会を今後も開催していただけるのか。	なるべく多くの方に参加していただきたいことから、開催時期や開催スタイルなど皆さまの御意向等も確認しながら、開催したいと思っております。
4	就学前	このような説明会をどれぐらいのペースで行う予定か。	
5	地域	P T A、就学前児童保護者、地域住民と分けて説明会を開催するよりも、みんな一緒に集めた中で分科会などを作り、話を進めていった方がよいのではないか。今後の説明会をどう進めていく考えなのか教えてください。	
6	保護者	他の学校や地域と一緒に説明会ができるのか。箒根地区4校と教育委員会で意見交換会や説明会があってもいいのではないか。	今回は、前回説明会でいただいた御意見等に対する回答などもあり、前回同様の形で開催しましたが、今後は全体会の必要性も考えています。

No.	区分	質 疑 ・ 要 望 ・ 意 見	回 答
7	就学前	今後開催される説明会に毎回参加できるわけではないので、説明会の内容や市の考えを確認できるよう、市のホームページで公表していただけないか。	現在、市のホームページでは、平成22年10月に策定した小中学校適正配置基本計画のみを掲載しています。また、説明会でお示した方向性（案）は、現段階の案であり決定事項ではなく、現段階でホームページに掲載することで「決定事項だ」との誤解を生じるおそれもあることから、掲載は難しいと考えます。なお、いずれ方向性が決定したのちは、準備検討の内容や過程などをホームページでお知らせする必要があると考えます。
8	保護者	子どもが一生懸命に勉強でき、運動できることが魅力ある学校の原点になるので、その視点は絶対に疎かにしないでほしい。	まさにその通りだと感じています。今回の義務教育学校設置は、その点においてとても有意義な結果に結びつくものと考えています。また、準備委員会で皆さまとともに魅力ある学校を作り上げる最高の機会だと考えています。
9	保護者	魅力的な学校づくりのほか、都市計画事業などにより、関谷地区区画整理地内に人が集まるような取組や事業はなされるのか。	「立地適正化計画」（関谷地区にゆるやかに居住を誘導していくもの）が策定され、居住誘導区域（関谷地区など）以外で3戸以上の住宅や分譲地を開発する際の届出義務などが必要となりました。
10	保護者	学校づくりよりも、人が住みやすいよう関谷地区のまちづくりを進めることが先決ではないか。市営住宅を作ったらどうか。	子どもたちにとっては大人たちとの関わりもさることながら、同年代同級生との深い関わりも重要であり、また、社会に出るために集団生活から学ぶこともとても重要だと考えています。御提案のとおり、まちづくりや定住促進、企業誘致にも力を入れていますが、複式学級となっている現状は、何らかの対処が必要だと感じているところです。また、学校魅力化の先駆事例によれば、働き口の少ない離島でも、学校に魅力を感じ都心から移住する現状もあることから、企業だけでなく魅力的な学校にも人を集める力が秘められていると考えております。
11	地域	この地域で人口が減少しているのは、私たち地域住民の問題ではない。大田原市が資生堂を誘致したように、那須塩原市も企業誘致を進めて働く場を創出し、定住人口を増やしていかなければならない。	
12	保護者	計画を真っ新にして、企業誘致やその工場付近の土地を若い方たちに買ってもらえば、雇用が生まれ、人口が増え、子どもも増え、税収がアップするのではないか。	
13	保護者	この地域に仕事がないと人は戻ってこないのではないか。	
14	保護者	小規模校に入学すれば給食費が無料になるなどのメリットを作れば、人は集まるのではないか。	
15	就学前	学校施設の整備以外に通学路に防犯灯を整備してほしい。	防犯灯は自治会での設置となります。市では、設置に対し補助金を交付しております